

## 西穂高～奥穂高縦走報告

【山行日】平成23年7月15日（夜行発）～18日（前夜発2泊3日）

【メンバー】田中（CL）三代川・辻本・井上

【行程及び行動時間】

15日(金) 千葉 22:30=松本=沢渡=安房トンネル=新穂高温泉駐車場（4:00）着

16日(土) 西穂高ロープウェー8:00=西穂高岳登山口（8:50）～西穂山荘 10:00～ 西穂高岳山頂(12:00)～  
P1（14:30）(ツェルト1名・テント3名泊)

17日(日) P1（6:15）～間ノ岳～天狗岳(天狗岩) ～天狗のコル～畳岩尾根の頭～こぶ尾根の頭～ジャン  
ダルム～ロバの耳～ウマの背～奥穂高岳山頂（13:45）～穂高岳山荘（15:00）(テント泊)

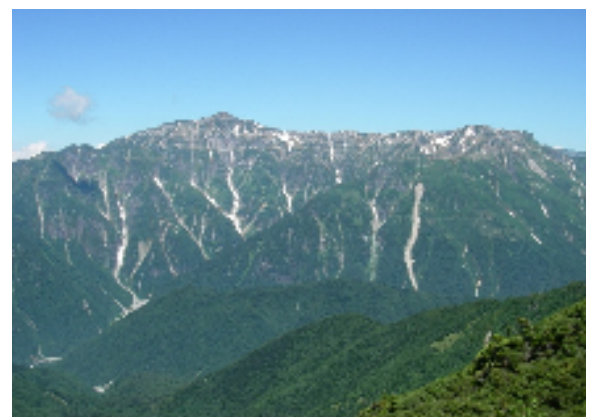
18日(月) 穂高岳山荘（5:50）～白出谷登山道を下山～新穂高温泉駐車場（12:00）

16日早朝の4時に新穂高温泉駐車場に着くが、すでに登山者用無料駐車場は満杯。駐車違反取締りのパトカーも巡回。やむなくロープウェー駅上の、有料駐車場に並びゲートが開くのを待つ。7時過ぎ、係員がゲートを開けるが、ここは日帰り専用の駐車場と判明。急ぎ蒲田川右岸にある駐車場へ移動し、無事、駐車場を確保。人も車も、夏の3連休は大変だ。

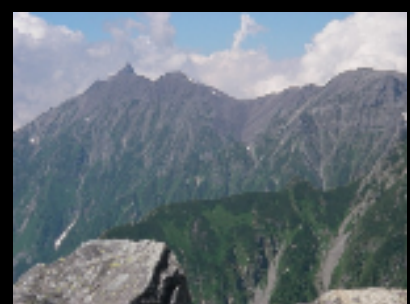
ロープウェーは8時に臨時便が出て、一気に西穂高口駅まで登る。ここから水4～5Lをザックに詰め、西穂から天狗のコル間でのピバークを目指して出発する。

3連休で登山客も多く、人気の西穂をめざし、大賑わいであった。（特に若者が増えたと感じた。）

ザックの重さと睡眠不足で暑さに負けそうな体に鞭を打ちながら、西穂山荘に着くと美味しそうなソフトクリームに飛びつく面々。何とも夏の光景を目にする。



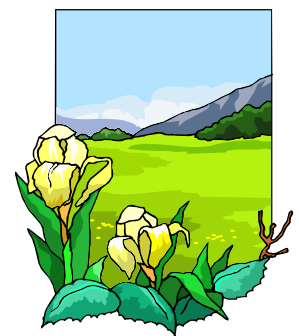
## 独標～西穂への道



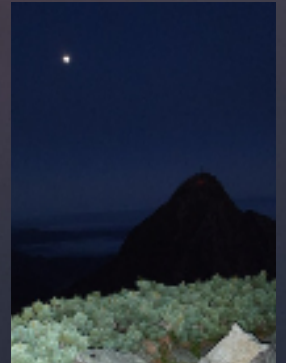
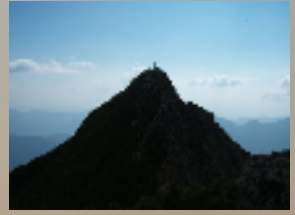
独標からピラミットピークを経て西穂本峰には12時に着いた。ザックを降し行動食と名峰の眺望を楽しんだ後、握手と記念撮影。その間にも私の足や頭が、早く泊地を決めろと悩ますが、本峰には2名程の泊るスペースしか無く、もう少し前進を決める。次のP1に辿り着くと、

3人用テント1張り、2m隣に一人分のツェルトスペースがあった。食事を取る広さも有り、此処を今宵の宿と決めてビバーク体制に入る。本人の希望で井上さんにツェルトビバークを体験して貰う事にして、万一の就寝中に奈落の底に落ちない様にザイルを巻き、近くの岩に固定して、トイレもそのまま行くように指示する。他の3人はテントに入りシュラフカバーにて就寝とした。

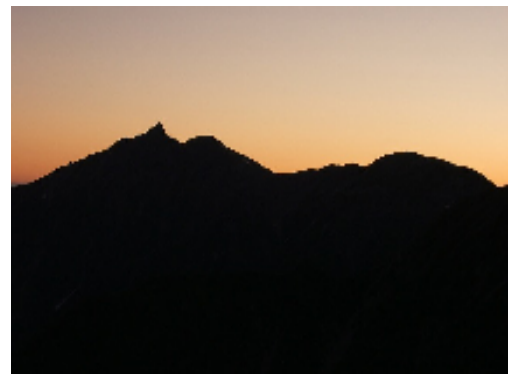
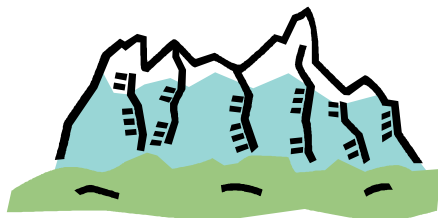
隣の本峰では一人の山屋がテントを張っていたが、夕焼けと共にその赤いテントが映えて、井上さんの赤と空の赤が良くあって素晴らしい宵となった。僅かに荷上げた酒に酔いながら撮る、山の質素な食事、特上メニューであった。



## ピーク1での一夜



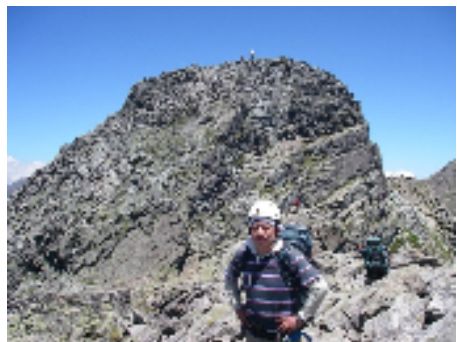
17日（日）満月を思わせる月と変わり、段々と暁光が差し込むファンタジックな空に起こされ、もっとも重要な1日が始まる。食事もできるだけ水を使わない質素な物となり、早々に身支度のあと、ジャンダルム～奥穂を目指して行動開始する。間ノ岳から天狗岳と、脆い岩稜を注意深く慎重に超えて行く。歩きながら天狗の科尔までに2～3ヶ所、ビバークサイトを確認した。天狗の科尔（岩小屋跡）のビバークサイトは曇岩からの落石で破壊されていて、2人がやっとのスペースになっていた。（落石の危険があり、使うのは無理かも）ここからが山頂まで一部の場所を除き、登り一方のきつく、落石の危険な場所を、鎖頼りの登高となる。曇岩の頭・コブ尾根の頭と緊張の中での前進となり、ジャンダルムに着く。



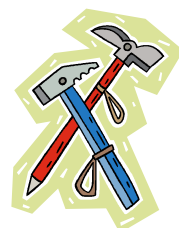
## ジャンダルムへの道



ジャンダルムは正面の鎖でも左の登行路でも頂きに立てる。  
我々は正面の鎖を空身で登り、岩場の登攀から頂きに着いた。  
頂きで満足してから元の基部に戻り、奥穂に向かう。再度、  
正面の鎖を登り、そこから右側をマワリ込む様にジャンダルム  
の正面（奥穂側）に出る。振り返るとジャンのドーム状の  
頭に、岩壁が突き上げ壮観である。  
ジャンは奥穂側から見るのが素晴らしい。



縦走の危険箇所はまだ終わらない。次はロバの耳から馬の背だ。  
これをクリアしないと奥穂には立てない。  
独標～西穂～ジャンダルムまでも、また、これからの場所も鎖が  
あるから一般者でも登れるが、なければⅢ級の岩登りである。  
ロバの耳への登行もルンゼ状の岩場やフェースを越えて、馬の背  
のリッジからナイリッジの稜線を越えると、やっと安堵の声とと  
もに奥穂の山頂が目前となる。（このロバの耳に向かうコルに雪渓  
があり、小豆ミルクのかき氷で束の間癒しを味わう。）



最難路  
「馬の背」と「ロバの耳」



正直、あまり恐怖感  
は感じなかった



山頂では、コルから背負い上げた雪に練乳を入れ、ミルク氷を味わう。居合わせた登山者にも振る舞い、大賑わい。登山者一同、ミルク氷で登頂の乾杯となった。

今宵のテン場は穂高山荘であるが、山頂でテン場が満杯であると聞き不安になり、早駆けで小屋に下りた。小屋に着くと小屋前石畳の広場に臨時に張れるとの事で、テントを2張り張った。石畳の上で宴会となり、小屋で買ったビールで乾杯！ 縦走の完踏を称え合い、質素な食事をとり1日を終えた。



奥穂高  
山頂にて





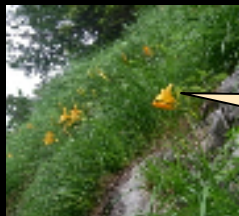
18日（月）台風の影響か昨夜は風が強かったが、小屋の軒下で不安は無く朝の目覚めとなった。

今日は新穂高まで白出沢のガレ場を延々と下る。ガレ場の登山道は結構、整備されており、矢印も至るところにある。300mほどの雪渓を、30mザイルに井上さんと田中でアンザイレンし、最初の2ピッチは田中アンカーで逆スタカットでの下降を井上さんがして、その間に三代川さんと辻本さんがザイルを握りながら下降した。滑落した時にピッケルで止まるか確認したところ、スプーンカットで1~2mで止まると確信したが、危険回避の為にアンザイレンした。3ピッチ目からは、下降の逆コンテにて田中アンカーとなり、ザイルを張った状態での連続下降をして雪渓を降りた。今回はザイルとピッケルで確保して対応したが、雪に不慣れな人は軽アイゼンが居るだろう。



雪渓から下は登山道が合わさり、どんどん下降する。沢筋の道では谷間の側面をへつりながら下降して行く。本日も緊張は絶えない状況。天狗沢との出会いでは、気持ちの良い雪溪水が奔流となって、蒲田川へ流れ落ちて行く。長い下山も白出小屋跡まで下りて一安心となる。ここからは林道歩きを2時間で駐車場に帰り着いた。久々の穂高の縦走を行い、水の運搬と行程の長さで緊張の登高に疲労もピークに達したが、心地よい疲れを味わい幕となった。新穂高温泉で汗を流してから往路の帰還をしたが中央高速の渋滞に巻き込まれ帰宅は22時過ぎとなる。

## 白出沢の下山



三代ちゃんが  
好きだといった  
岩に咲くキスゲ

